

大阪城

2021
10/28
(木)
14208
号

全巻
西成分
2247
6647-
4947

大きな落葉が道に落ちていて、ふから紅葉が
山を色とりどる季節の到来を感じます。
着る物も寒さにむけたものと着るように
日々、人間、卸れていきます。

日本が好きで、この季節の移り変わりが
はつきりしていて、秋・冬・春・夏、みんなとれどれ
いんだ……というた、瀬島龍三さんのコメント
思い出す。元南軍の参謀で、晩年の講演会で
は、たいしたことはしやらず、日本の四季とシベリアから
帰ったすぐは、任吉の方の府邸に任命、左官屋の
仕事をしていたという話がほとんどだったのと思ひ出す。
今から思えば、瀬島さんは、左官屋の仕事を続け、
労働運動などをやった。その人生の中で、日本軍国陸軍の
反省と総括をすべきだったために……と思ひ出す。
満州事変（1931年、昭和6年）の責任者、石原莞爾^{かんじ}
さんにも、晩年、百姓をしかったが、交命な総括は出せて
いない。育ってきた時代と生きてきた栄養食の枠と
限界があったにせよ、残念なことである。

今、時代は、ニコニコしながら、敵基地攻撃戦をやるとか、軍事費をふやせとか、自分は死なないと思ひついでいるやつ、命令する役だと思ひついでいるやつが、イサマシイことというのが、立派とか、再度の敗北の道に介つた。

